

いちごの品種育成の取り組み

野菜研究所

いちごは生食用、加工用とも需要の増加が期待されています。栽培は冷涼な気候を好むことから、青森県は栽培適地のひとつであり、本県は東北農研と共同でイチゴの品種育成に取り組んでいます。

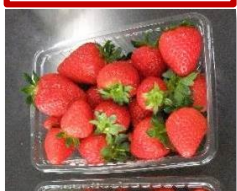
東北農研から提供された新系統のイチゴ苗を野菜研究所で栽培し、青森県に適するかを見極めた上で、本県の品種育成に反映させるべく検討しています。

現在、所内試験で有望と判定した一季成り性「盛岡36号」と四季成り性「盛岡37号」について、現地試験を実施しています。

一季成り性「盛岡36号」の特徴

- ◆商品果収量は640g/株である。
- ◆1果重は14g程度と大きい。
- ◆果実の硬さは「北の輝」より柔らかめ。

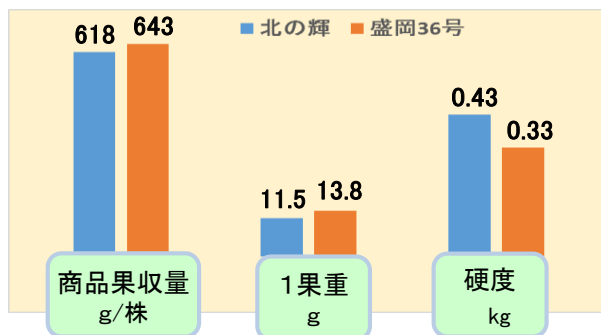
盛岡36号



現地試験栽培の状況(平川市)



露地栽培で試験を実施。



所内の栽培試験結果 (H26, H27の平均値)

四季成り性「盛岡37号」の特徴

- ◆商品果収量は570g/株である。
- ◆1果重は11g程度である。
- ◆果実の硬さは「なつあかり」より硬め。

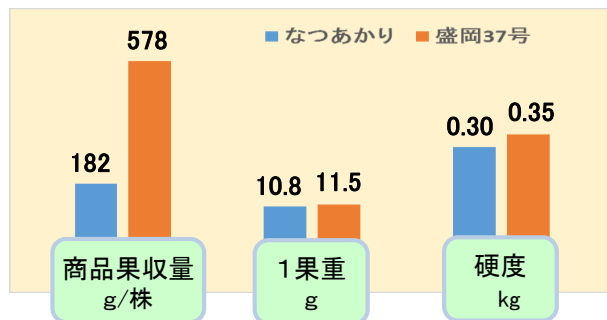
盛岡37号



現地試験栽培の状況(弘前市)



ハウス内の高設栽培で試験を実施。



所内の栽培試験結果 (H27, H28の平均値)
※なつあかりに生育不良株が発生し、商品果収量が低くなった。

今後の展開

現地試験の結果や、他県の結果が良ければ東北農研と協議して品種登録を進めていく予定です。

お問い合わせ

野菜研究所 品種開発部 (TEL0176-53-7419)